



2024年7月

栃木県テニス協会 理事長 吉井正光

TTA レポート(No.131)

暫くぶりのレポートです。

今年も5月に関東オープンテニス選手権大会ベテランを県総合運動公園で主管開催しました。昨年と同様に男子80、85歳、女子65、75、80、85歳という国内最高年齢の種別で全日本を目指す選手たちがしのぎを削っていました。

本県にも男子80歳にエントリーした佐藤久和選手がシングルスベスト4という戦績を収められました。大会を通してテニスは生涯スポーツであることを改めて認識し、来年度の主管開催に手を挙げていきたいと思っています。

また、今年度は栃木県スポーツコミッションと連携して各地からエントリーしてくる選手に本県の魅力をPRする機会を得ました。大会が約1週間に亘ることから滞在期間の経済効果を期待しての取り組みでした。それがどこまでの実績に結び付いたかは分かりかねますが、今後も栃木の魅力を発信する一助になればと思います。

話は変わって、今年度から国民体育大会が、国民スポーツ大会に呼称が変わりました。略して国スポと呼んでいます。

栃木県の代表選手選考を行い、成年の部男子は海野選手(駒大)、真中選手(亜大)が代表に選出されました。女子は森崎選手と今西選手(県スポーツ指導員)が選手とされております。

少年の部では、江原選手(足大附高)、柳沢選手(足大附高)が選出されました。女子では石井選手(浦和麗明高)、平野選手(星の杜高)が選出されました。

選考大会において特筆すべきことは成年男子の海野選手は、昨年の鹿児島特別国体において少年の部代表選手でした。この選手が成年の部の代表になるということで、少年の選手が確実に力をつけていることに将来に期待が持てると感じました。

少年の部においては、中学3年生の安生選手が並みいる高校生を撃破しての3位につけました。女子においても岡田選手が高校2年生で3位につけるなどこれも将来につながる状況ではないかと感じました。

本県でも少子化の影響かテニス人口の減少は否めず、県内大会への参加者数減少を危惧する声は少なくありません。そんな中でもこうした若年選手が着実に育っていると感ぜられ将来へ期待が膨らみます。

